

## Building lifestyle around Ferrari

# 50周年から70周年へ

2016年は日本にフェラーリが正規輸入されてからちょうど50年の節目だった。  
そして2017年。いよいよフェラーリ70周年がやってくる。



10年前。2007年初夏のフィオラーノ・サーキット。路面からの照り返しが非常に厳しく、取材にはかなり厳しい環境だったことを思い出す。しかし敷地内を歩けば著名人にあたる……という状況で、往年の跳ね馬レーシングドライバーと次々にすれ違う。そう言えばジャン・アレジの娘(=後藤久美子の娘)にカメラを向けたら睨まれたなあ、という思い出もあったりして。そう、これはフェラーリ60周年記念イベントへ取材に赴いた時の話だ。

当時フェラーリのプレス向けイベントや試乗会と言えば、現地集合、現地解散が基本。個人的には599や430スクーデリアの試乗会取材を担当した。そして60周年。この時は宿などもこちらの手配で、言ってみれば"マラネッロ様詣"だった。

そこからの10年は、フェラーリにとって大きく変化のあった10年だった。ルカ・デイ・モンテゼーモロがイノベーションを叫び360 モデナを送り出した1999年以降、21世紀のフェラーリは車両のクオリティを次々にアップさせ、ツインクラッチ(DCT)、直噴エンジン、電動ハードトップなどを初採用した2009年のカリフォルニア以降、今度はそのブランド価値を次々に高めていった。フェラーリ・クラシケ、テラーメイドプログラム、フォーリセリエと呼ばれるワンオフモデル……。本誌の立場で言えば、オフィシャルの雑誌『フェラーリ・マガジン』創刊も衝撃的だった。何せ全てのネタが、当たり前のことだが"どこよりも早く"掲載されているのだ。こうした、世界のあらゆるフェラーリ・ビジネスを自分たちで掌握していくかのような取り組みをリアルタイムで見えてきて、その手法にただただ感心する一方、恐ろしさすら覚えていたのである。

さてフェラーリ日本上陸50周年という2016年を終え(最後にJ50というとんでもない花火が……。詳細は次ページから)、2017年はフェラーリ70周年である。2016年9月にパリ・サロンを久々訪れたところ、70周年ロゴが発表され、その記念車としてラ フェラーリ・アペルタと350台の限定モデルもワールドプレミアされた。詳細はP20～を参照頂くとして、マラネッロでは"ワールドツアーといくつかのイベントを開催"とも発表された。またその後一部プレス向けのコンファレンスに出席したところ、250GTOが55周年なので、9月にイタリア全土を走る公式イベントも開催したいともコメントされていた。

果たして70周年はどんな年になるのか? マラネッロのイベントはどんな華やかなものとなるのか? そして本誌は……?

